

CASA新聞

発行 株式会社カーザミカワ
岡崎本社 ☎0564-24-2511
岡崎市吹矢町88番地
豊田営業所 ☎0565-28-3891
豊田市豊栄町6丁目1番地

外材製品の値上がり進む

名古屋地区

名古屋地区内では不足が続く外材製品の値上がりが進んでおり、この動きは今後も続く見通しだ。このため、商社や問屋は国産材など顧客への代替品提案を課題に挙げる。一方、国産材は素材価格に変化はないが、製品は外材製品の代替で値上がりしているものもある。

地区内製材・合板工場の素材需要は旺盛だが、コロナ禍前の価格には戻っていないと指摘する森組関係者もいる。今後の素材不足を見越して、地区内製材工場の

なかには前月に素材調達価格を引き上げ、4月から全製品に価格転嫁したところもある。国産材製品は、Wウッド製品など外材製品の不足が深刻化している影響で、代替品として需要が増加している国産材の杉間柱が値上がり。また、素材不足から並材桧土台の不足を指摘する声も聞かれる。杉間柱については、今後とも値上がりが続くことも予想される。

欧州材製品の入荷量は減少が続き、国産材峠の代替提案が進んでいる。だが、各製品で流通が少なく、希望数量の手当ては困難。国産材をはじめ代替品を探す動きが広がるが、供給力には限りがある。

しかし、特定樹種への移行は量などが課題だ。Wウッド間柱は代替品の杉の提案が間に合わず、今後は大幅な値上がり、杉に加えて桧の代替も進むと予想される。Wウッド集成管柱もラミナ高や現地挽きの入荷減少や遅れで値上がりが続く見通し。Rウッド集成平角を扱う問屋は、今後は現状から数万円の値上げの可能性を指摘している。

ロシア材のエゾ松製品は、原板に入っているため単価が上昇している。このため、製材工場では既納客への供給にも苦心しているという。品薄は大型連休明けまで続くと思われる。

米材輸入製品は、入荷減少、流通在庫払底、供給の不透明さから品薄感が強まり、問屋からは機会損失の声も聞かれる。針葉樹合板は、実需を反映して引き合いが落ちているが品薄感が続く。メーカーの価格改定の動きは一部に留まり、横ばいムードに変化しつつある。

欧州材商況

資材不足が深刻化

2021年第2・四半期の欧州材契約交渉は、各品目でユークロ価格が大幅な値上げとなった。構造用集成材は、Wウッド集成管柱・Rウッド集成平角とも前回比高で、円安も考慮すると輸入コストも高くなる。集成材メーカー向けラミナや再割メーカー向けWウッド原板も提示価格に差があるがほぼ決着している。

価格以上に懸念されるのが供給量で、いずれの品も絞られた。夏にかけての入荷も低調で、国内の製品流通ひっ迫は長期化が予想される。国内の流通業者や集成材メーカーは、先物コストの高騰を受けて値上げを急ぐ。Wウッド集成管柱は、4月早々にも値上がりを見通し。Rウッド集成平角も大きく値上がりそうだ。競合する米松製品が3月後半に値上げを打ち出しており、欧州材集成材も追随する。Wウッド集成平角も流通の減少で強含み。プレカット工場では資材在庫が極端に薄いため値上げに応じていく方針。だが

各製品で流通が少なく、希望数量の手当ては困難。国産材をはじめ代替品を探す動きが広がるが、供給力には限りがある。

名古屋

欧州材製品の入荷量は減少しており、国産材等への代替提案が進んでいる。しかし、特定樹種への移行は量などが課題になり困難だ。問屋は「今後は商社や問屋、プレカット工場、ハウスメーカーのすべてで幅広い樹種やB材への代替対応が求められる」と話す。

Wウッド間柱は代替品の杉の提案も間に合わず、今後はさらに値上がるほか、杉に加えて桧への代替が進むと予想する声もある。Wウッド集成管柱について問屋は「直近の現地挽き、国内挽きを合わせた取扱量は昨年の半分程度ではないか」と話し、こちらも値上がりが続く見通し。Rウッド集成平角を扱う問屋は「荷動きは堅調だが、毎月の値上げ実施の可能性も含め、顧客には状況の周知を徹底したい」と話す。

木材製品不足で住宅業界動き出す

住宅業界が木材製品不足で声を上げ始めた。JBN・全国工務店協会（大野年司会長）は、まだ会員工務店の建築に目立った影響は出ていないようだが、「このままでは7、8月に木材不足で着工できなくなるのではないかと危惧感を強めている。既に足元のプレカット資材価格は契約・出荷時で開きが出ており、プレカット工場が契約時の価格で納めている様子。今後

引き合いがどこまで増えるかは見通しづらい。一方、国内合板メーカーは在庫薄の状態が続いている。2月の針葉樹合板の生産量は24万6400立方メートルに対し、出荷量は23万9900立方メートルで、生産量が出荷量を上回った。このため、在庫量は11万4000立方メートルに。久しぶりのまとまった在庫増となったが、在庫水準は出荷量ベースで0・4カ月分しかない。各合板

工場は生産したものをすぐに出荷している状況が続いている。しかも、3月20日の宮城県沖地震で東北の合板工場で火災が発生した影響で、生産減は避けられないとの見方が強まっている。これによる仮需手当ての動きは限定的だが、木材製品の不足が深刻化するなかでの在庫薄と一部合板工場の生産減により、直需系を中心に早めの手当てする動きが広がっている。

国産合板商況

メーカー在庫の確保進まず

国産針葉樹合板の荷動きは3月中旬から引き合いが増えている。2月下旬から全国的に一服感が広がったが、プレカットなど直需系の顧客を中心に新年度からの注文が入っている。ただ、構造用集成材や間柱など木材製品全般に不足しており、大手プレカット会社も受注制限を始めている。今後、需要があっても木材不足から加工が進みづらくなる可能性もあり、

は契約の文言を変更する必要がある。「4月は工務店の木材契約価格が大きく上がり、その後は木材が手に入らず価格未定という話が多い」と話す（JBN・全国工務店協会）。

全国建設労働組合（全建総連）も、3月末から会員情報を元に動き出した。「木材価格上昇で、これまでの住宅販売では売れなくなると工務店が受注を控えている」（全建総連）という。国土省も関係団体からの声を元に情報

表示説明	値下げ	横ばい	値上げ
市況状況	ラワン薄ベニヤ	・	・
	ファルカタ正寸12mm T2	・	・
	針葉樹12mm 3×6	・	・

を収集し始めたが、木材供給は林野庁の所管であるためできないことは少ない。「林野庁と情報を共有していきたい」（国土省）と話す。

総数20カ月連続減

2月の新設住宅着工

国土交通省は3月31日、2月の新設住宅着工を公表した。総数は6万764戸（前年同月比3・7%減）となり、前年同月比で20カ月連続の減少になった。2月分では、直近最低の2010年5万6527戸に次ぐ11年ぶりの低水準。20年1〜2月は約60年ぶりの落ち込みだったが、21年1〜2月はさらに前年同期より約4000戸減り、20年度の総数は81万戸を割りそうだ。20年1〜2月は持ち家を中心に減少したが、21年1月は貸家、2月はマンションが大きく減った。19年秋の消費増税反動減と大型台風の影響で20年1〜2月は大きく減ったが、21年同期は持ち家や貸家の目立った挽回もなくさらに下押しした。

例年2月は、好調な時期は7万戸前後となるが、リマンショック後は6万5000戸水準だった。20年度2月までの総数累計は74万377戸（前年同期比8・9%減、7万2581戸減）。3月分では、直近最低の2010年5万6527戸に次ぐ11年ぶりの低水準。20年1〜2月は約60年ぶりの落ち込みだったが、21年1〜2月はさらに前年同期より約4000戸減り、20年度の総数は81万戸を割りそうだ。20年1〜2月は持ち家を中心に減少したが、21年1月は貸家、2月はマンションが大きく減った。19年秋の消費増税反動減と大型台風の影響で20年1〜2月は大きく減ったが、21年同期は持ち家や貸家の目立った挽回もなくさらに下押しした。

幅が縮まるのは久々だ。リーマンショック後の貸家は、2万戸を割りかねないほど減退した。2020年度累計は27万5773戸（前年同期比10・5%減、3万2191戸減）と減り、3月に2万5000戸を割ると年度総数は30万戸を下回る。30万戸割れは11年度以来10年ぶりになる。分譲は1万7398戸（前年同月比14・6%減）となり、前月の増加から再び減少した。4カ月連続で2万戸を割るのは14年以來7年ぶりで、ここ最近ではマンションが低調だ。20年度累計は21万7317戸（前年同期比8・9%減、2万1195戸減）となり、3月に2万戸を超えても年度総数は24万戸前後。14年（23万9086戸）以來6年ぶりの低水準になりそう。

月分は6779戸（前年同月比27・5%減）と前月の増加から減少し、470戸（同4・0%減）と15カ月連続で減少した。

化粧合板、メーカー一斉値上げへ

6月以降に供給激減

基材に南洋材合板を用いた化粧板が、薄物南洋材合板の価格高騰により一斉値上げの様相となった。また、入荷量も近年で最低水準となっており、今のところ回復のめどは立っていない。6月頃には深刻な品不足となる可能性がある。3月に大新合板工業が南洋材合板事業から撤退したことと、インドネシアの合板メーカー、ウイジャヤ・トリウタマ・プライウッド・インターストリーの合板工場がJAS格付け停止となったことがある。

表面にオレフィンシートや強化紙、塩ビシートのなどを張った化粧板の機材はかつては南洋材合板が主体だったが、度重なる供給不安と価格上昇を受けて、MDFやパーティクルボード、不燃基材などへの素材の多様化が進んできた。それでも化粧板合板は台板樹種の約4割近くを占めるとされ、依然高い比率を占めている。国産針葉樹合板や植林木合板などを用いた新機材も登場しているが、特に湿気が懸念されるキッチンや浴室の底板には、南洋材合板への根強いニーズがある。各物件ではあらかじめ化粧板の仕様がスベ

ツクインされているため、基材の切り替えは簡単ではないという事情もある。だが、今回の薄物南洋材合板の品不足は近年にない深刻さだ。同時に南洋材合板台板を利用した化粧板の価格も上昇傾向が続いており、MDF台板製品の値差は倍近くまで広がっている製品もある。品薄と同時に、台板価格の高騰から化粧合板も一斉値上げとなっている。

化粧板では製造コストの7割を基材が占めるため、値上げは不可避だ。南洋材薄物合板2・5リ、3×6判の現状価格は前年同月比25%上昇しているが、先高が進み、5月には同40%近く上昇する見通しとなっている。南洋材合板はこれまでにも価格変動を繰り返してきたが、大新合板工業の事業撤退の影響は大きく、供給減の解決には時間が掛かるとの見方が多い。同社は特殊サイズの少量加工を手掛けており、そうした製品の供給を受けていた化粧板メーカーの打撃も大きい。MDF基材への移行はさらに進むと見られるが、MDFも輸入チップや接着剤の価格が上昇しており、こちらも値上げ基調となっている。

米松商況

2カ月連続値上げ

大手製材工場向け米松丸太の4月積みは2カ月連続の値上がりとなった模様だ。北米製材市況が高止まりするなか、現地向けの価格がじり高推移する一方、日本向け価格の据え置きが続く。内外価格差が縮まったことが背景にある。一層の円安進行に加え、フレイトが大きく上昇しており、コスト増が著しい。これを受けて国内挽き製材最大手は3月1日に続き22日にも製品価格の値上げを実施したが、コスト転嫁しきれたか是不明だ。フレイトは下落する兆しがなく丸太価格はなお先高観があり、値上げも考えられる。

国内挽き米松製材は輸入米松製材の供給減に加え、構造用集成材の供給不足から代替の引き合いが活発化。国内挽き製材各社はフル生産が続く。産地への丸太引き合いも増えているが、製材工場の増産には限りがあり、供給を増やせる状況でもなさそう。ただ、米国の最大手シッパリーの日本向けの供給姿勢は変わらず、必要丸太の供給は維持されそう。集成材の供給不足を補うのが難しいとしても、原料の安定供給は米松国内挽き製材に対する信頼を高め、先々のシェア維持に寄与すると見られる。

名古屋

米松丸太は産地価格の高値と日本向け供給量の低下が続くことで調達に難しくなっている。国内挽き大手メーカーが段階的に値上げを実施せざるを得ないコスト環境であり、中間流通業者や需要者は代替材を探すべきが活発化している。